

タテ、ヨコそれぞれに当てはまる言葉でマスをうめてね。
アルファベットのマス^を順番に並べると、
仏教にちなんだ言葉（キーワード）があらわれるよ。

1		2		3		4		5
		6	7		8			E
	9		10				11	
12		13			14	15		16
		B						
17				18		19		
		20	21		22			
	23		24				25	
26		27			28	29		30
								C
		31						

キーワード A B C D E F

ヨコのカギ

- よく知りつくした人に対して教えることのおかしさを、仏教を開いた人にお経を教える様子にたとえて「〇〇〇に説法」といいます。
- 12月22日ごろの、一年でいちばん夜の長い日のこと。ゆず湯に入ったり、カボチャ料理を食べたりするよ。
- 野菜などを、包丁でこまかく切りきざむこと。
- 野球で、それまで出ていた人にかわって打者(バッター)になること。ピンチヒッター。
- 読書や研究、書きものなどをする部屋のこと。
- 植木などで庭や土地を仕切る、垣根(かきね)のこと。
- くだものを長持ちさせるために、砂糖といっしょに煮つめたのが、はじまりでした。
- 北海道みやげとしてもおなじみの、水中で育つ、まるい植物。天然のものはとても貴重です。
- 本を読む、としょかん。美術品を鑑賞(かんしょう)する、びじゅつかん。映画をみる、?
- 木や石に穴をあけるための工具。歯を回転させてつかいます。
- 山の、日当たりのいい場所にはえる背の高い木。皮の色は白く、うすくはがれるのが特徴。
- 生徒が先生のもとで勉強するところ。日本では、「小」と「中」にはかならず行きます。
- 川を渡る方法として舟がつかわれていたころ、舟をあやつる船頭さんをこうよびました。

タテのカギ

- 空気中の水分が、草や地面の上で氷になったもの。
- 「〇〇をおろす」「頭をまるめる」ということばは、出家してお坊さんになるという意味があるよ。
- 紙や、木綿(もめん)・麻(あさ)などの糸は、植物の〇〇〇をあつめて作られます。
- 寄席(よせ)や発表などで、一番最後に出演すること。
- 華やかさや、げげげげしさの無いようす。反対の意味のことばは「派手(はで)」
- 明治時代(めいじじだい)よりも前のお話を演じる「〇〇〇劇(げき)」。
- 会議で話し合う題材(テーマ)のこと。
- 大晦日(おおみそか)から元旦(がんたん)にかけて、108回鳴らされる〇〇〇の鐘(かね)。一年の迷いを鐘の音とともに打ちほらい、新年をむかえよう。
- 「おわり」という意味があるため、おすし屋さんで最後に出されるお茶や、すぐろくでゴールしたときのことをこう言います。
- 川やみずうみに住む二枚貝。みそ汁の具でもおなじみです。
- もともとは、仏教で毎日の労働作業を意味する「作務(さむ)」のときに着る作業着のこと。
- 金属の板や革に、花や鳥のもよう、仏さまなどをすかし彫りにした、仏教のかざりもの。
- 西洋から洋服やドレスがつつたわる前は、日本人はみなコレを着ていました。
- 大豆を煮てしぼった豆乳に、これを入れると豆腐(とうふ)ができるよ。
- ご近所さんたちが、家事のあいまに集まっておしゃべりしている様子を「会議」にたとえました。どこでおしゃべりしていたんだろう。
- オス・メス共にこげ茶色をした、日本では身近に見られる水鳥。おやこが1列にならんで歩くすがたを見た人も多いのでは?
- 魚が、水の中で呼吸(こきゅう)をするために必要な器官(きかん)。
- ♪ゆ〜きやこんこ あられやこんこ♪…コタツの上でまるくなる動物。
- うめぼしを作るとき、実といっしょにつけこむ葉。赤いものを使うよ。
- 両親と子ども、3人がならんで寝ているようすを漢字1文字にたとえるよ。何の字かな?
- 針と糸をつかうけど、お裁縫(さいほう)ではありません。竿(さお)とエサも必要です。
- 平成16年の干支(えと)は、子(ね)から数えて9番目。7番目の干支は、何だったかな?